

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200541		
法人名	株式会社 秀心館		
事業所名	グループホームやわら		
所在地	静岡県浜松市中区鴨江一丁目30番14号		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成26年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族的な雰囲気の中、個々人がゆったりと流れる時間を大事にしているホームです。食材の購入をはじめとして、手作りの食事で皆さんから喜ばれています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は浜松市の中心街鴨江南町の市街地の一角、旅館街にあります。建物は鉄筋コンクリート4階建てで5階は広い屋上になっています。またグループ企業には、NPO法人秀心館の柔道場があり少年スポーツの育成に貢献しています。事業所は、管理栄養士の資格を持つ管理者を中心に「一人ひとりに寄り添う介護、その人らしい暮らしの実現のため質の高いケアを提供しよう」と努力しています。事業所内には広い4階ホールがあり、利用者の機能訓練の場として歌や運動を提供する音楽療法やカラオケ合唱がにぎやかに行われています。そして防災防火の一助として近隣地域との更なる連携を取りたいと地域に提案を続けています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意識はあるものの、主体的に実践はできていない。 日々の仕事に追われている感がある。	「一人ひとりに寄り添う介護」という理念を実践しようと利用者の目線でケアに努めています。それでも、日常の介護業務に追われ地域密着の関係づくり、近隣とのつながりが、おろそかになりそうだと、悩まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などを通して、交流が増えつつある。	鴨江南町の2日間の夏祭りの参加やグループの柔道場の餅つき大会開催と参加で町内との交流を深めています。また歌謡ショー見物、回転スシなどにも出かけて楽しみました。その他、事業所前の街路の清掃に8名が参加しました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援に直接的に繋がっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の限定が有り、今後はもっと増やしていく予定。	運営推進会議では、長らく家族の出席がなく9月例会から参加が実現できました。その他実地指導で指摘された重要事項説明書の所内掲示などを改善したことを報告しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議において、情報共有をしている。 市担当者からの助言をもとに、指導を生かしている。	市からの助言で、「万一の徘徊の発生で近隣組織の援助要請の方法」を教えてくださいました。また災害時の避難場所に、グループの柔道場の活用を提案しています。研修では「看取りの事例報告」が参考になりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ委員会を立ち上げ、定期的に会議を行っている。	「拘束ゼロ委員会」を設けました。ただし最近、転倒事故があり、家族の同意を得てベッドに転倒防止柵を夜間の短時間だけつけています。現在ベッドの形状を含め検討中です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士が声かけすることで、虐待は防止できている。 学ぶ機会がないので近く虐待防止の研修会に出席する予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の1人が利用していることで、概ね理解できていると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	2014年2月～8月に、7名の入居があり、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設け、ご家族のご意見を伺っている。	防犯上、4階に受付を設けました。また、スタッフの胸に名札プレートを付けましたが、利用者の介助で、邪魔になる、危険という意見が出て、現在、次善策を検討中です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、個々にも話を聞いている。	職員会議で、様々な提案が出ます。入浴槽に簡易移乗装置の取り付けの提案、リビングの椅子に、安定のための肘掛を付けるなどが採用されました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者が去年は少なく、職員も不安が多かったが今年にかけて充実させていく。向上心は持っているが、モチベーションが下がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナー・研修等を掲示するが、職員個人の意志に任せっきりにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流をしていない。 地域包括からの紹介などを中心に、少しずつ繋がりを行いつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の方針が家族のような関係作りに重きを置いているため、皆真摯に向き合い良好な関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にできるだけ範囲の情報を出してもらい、個々の支援に生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族の希望も施設側からの提案も相互に相談の上展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難しいことではあるが、できる限りの範囲で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々によって違いはあるが、できている。	ご利用者が、これまで培ってきた人間関係や社会とのつながりを大切にしています。信仰心の厚いご利用者の外部への参拝支援、昔のカラオケ仲間の訪問で、歓談する場の提供や支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子の配置の工夫などを努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに行った時には、顔を出しています。大変喜んでくれます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿えるようにやっているが、希望に沿えないこともある。	植木、草花の好きなご利用者はグループで公園に行くことで楽しんでもらっています。希望の聞き取りは「申し送りノート」で情報を共有します。帰宅願望の強い利用者には、声掛けと散歩で、気分転換を図る支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	利用者の変化に注意を払い、介護日報等で、できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	連携した介護計画作成の体制を整えることでスタッフに周知実施している。	介護計画は、本人の状況から朝の申し送りなどで介護プランの追加を協議し家族の意向を聞き入れ、設定した期間ごとにサービス担当者会議を開き、見直しをしていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間の開きがないように、申し送りにて常に連携をとることにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に対して、できる限り支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、施設に対応を任せるといご家族がほとんどで、後日の報告が多い。緊急時には、必ずその時点で報告する。	医療体制は、協力医が4週間1回の往診、歯科医は1年1回の往診があります。看護師は週5日、1日2時間の勤務と24時間の電話対応が可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の採用により、きめ細やかな介護支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	HPの相談員と、現在の状況を今後の方針について話し合いが持たれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の話し合いは、家族と行っている。	事業所では、「終末期の事前確認書」を看護師の立会いの下、ご家族と取り交わし、終末期の意向や医療の希望を確認しています。今後は更に協力医、家族、職員らの話し合いを深め万全な重度化対応をしていく予定です。	重度化の進行は、避けられません。状況変化に応じて、協力医、ご家族や職員間での話し合いを繰り返し、積み重ねることが必要で、期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	書面でのマニュアルはあるが、訓練を行っていないため対応に不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を地域の方々に連絡し、協力を得ている。 日中は対応できるが、夜間は1人対応のため不安は残る。	事業所では、近くの消防署の協力を得て、本番さながらの訓練を行い、ビデオを制作し夜間の防火意識を高めています。避難場所は近くの料理店に依頼し、台所はオール電化器具にし火災に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった個別の声かけを実施している。	事業所では、援助が必要な時には、本人のプライドを傷つけない、さりげない言葉がけの対応を目指しています。そして職員の気配りやその教育は、その場ですよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に、本人の自由意志を尊重している。 職員からの働きかけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールに合わせて行っている。 できる限り、希望にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、その時々に応えている。 好みを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望を聞いたりすることで、食事を楽しみにしている方も多し。食材調理よりも、食器の準備片付け等をお手伝いのメインにしている。	食材の買入れは、職員と半数のご利用者が日常的に行っています。職員の中に管理栄養士がいて、メニューの希望は、日常の会話の中から、取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示、健康状態に気をつけている。 体調不良時などでは、水分摂取を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に声をかけ、自力でできない方にはスタッフが介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に声かけし、自力でできるように支援している。	ご利用者の4割は布のショーツ着用です。そして声掛けを励行して反応のある方はトイレ介助をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品の選択により、繊維質の摂取にも心がけている。 (ヨーグルト・ひじき・ゴボウ等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間が決まっていて、拒否は可能だが、夕方は希望に添えないときがある。(週2~3回) 夜間は、対応不可	2階には回転式リフトの入浴補助装置が付き利用者、職員には好評です。一部の認知症の方の入浴介助に困難さがあり、その対応に苦慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は健康上問題ないときは自由意志に任せているが、睡眠障害へは薬での対応がメインとなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の情報はすぐに確認できるようになっているが、慣れによる間違いが起る可能性がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の好みに合わせたレクの提供をしているが、画一的になっている部分もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に添えるように努力しているが、人数上無理な時もあり、全てに応えられてはいない。	近隣の散歩は、最近、認知度の進行で距離が短くなりました。また5階の屋上の展望は素晴らしいのですが、楽しむ、ご利用者は少なくなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は、施設側で管理しています。個々に応じて、できている(毎日の買い物等) (金銭のわかる方のみ)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があれば、常識の範囲内で自由に使うことができるように支援している。例外もあり。(家族拒否の場合)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔であることを優先している。トイレや風呂場で、不快感なく過ごす事ができている。	2、3階の居住スペースの広間の他に4階にホールがあって、歌と踊りの音楽療法のイベントやカラオケの合唱を楽しんでいます。これらの共用空間の清掃は、職員の作業日程に組み込まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席以外に共用のソファやベンチを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の相談に応じて自由に変えることができる。レクで作成したものを飾ったりすることで明るい居室を目指す、やはり寝室としての位置づけが多くを占めている。使い慣れたものをとの話だが、軽くて便利な物を選ぶ傾向もある。	使い慣れた物をということから、一族を祭った家具調の仏壇のある居室がありました。ある時は、愛玩のインコを待ちこんだ利用者がいましたが、鳥かごの清掃などは家族にお願いすることで実現できました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上(2・3Fが居住フロア)別フロアへの移動は、職員と共に行っている。生活範囲が狭くなりがち。 風呂場に可動式リフト・トイレにも可動式の手すりあり。安全に入浴・排便ができている。		